



# 桜小地区福祉委員会 第5次地区福祉計画

## 地区の特徴

桜小地区には、市役所やスーパー、病院、鉄道駅があり、市内で最も人の動きが活発な地域です。人口は僅かに減少していますが、世帯数では増加傾向が続いており、その結果1世帯当たりの世帯人員は平均で1.86人にまで低下しています。自治会は17ありますが、加入率は年々減少し20%台前半にまで低下しており活動も低調な地域です。地域特性としては、「暮らすには便利である反面、地域社会とは孤立しがちな地域である」とも言えます。コミュニティ協議会は、平成27年に市内で最も遅く組織化されましたが、現在活発に活動を行っています。福祉委員会は、これまで居場所づくりを通じて孤立予防や介護予防の活動を中心に、また助け合いのボランティア活動や町・丁目単位の小地域支え合いネット活動にも力を入れて取り組んでいます。

## 桜小地区の人口、世帯数、高齢化率

人口などのデータは  
コチラ→



かわナビは  
コチラ→



## 福祉目標

# つながって 楽しく 元気で 支え合うまち 桜小地区

## 地区の重点事業

重点  
1

社会的孤立をへらし健康寿命を延ばす取り組み

重点  
2

子育て世帯を地域で支える取り組み

重点  
3

小地域支え合いネット活動の充実

重点  
4

持続可能な福祉委員会づくり

重点  
5

地域の互助（支え合い）活動の推進

## 地区別ワークショップでの意見

- ◇若い人の地域参加について
  - ・参加を促すSNSの活用による情報発信
  - ・若い人が参加しやすいイベント、参加の工夫
- ◇もしもの時の安心の地域づくり
  - ・近隣関係の強化と声掛け、助け合い
  - ・一人暮らし・認知症の人が安心の地域づくり
- ◇共に生きる地域づくり
  - ・障がい者を個性として捉え、共に学ぶ場が必要
- ◇子どもの居場所・子育て世帯への地域支援
  - ・子育てしやすい環境の整備

## 第4次地区福祉計画からの課題 (平成30年度～令和5年度)

- ◇福祉委員会の維持継続のための後継者育成
- ◇小地域での支え合いネット活動の充実
- ◇子ども、子育て世帯をめぐる問題への対応
- ◇福祉委員会及び地域の互助活動の推進
- ◇災害時の対応も視野に入れた活動の方向性の検討が必要
- ◇地域の色々な団体、機関との協働の必要性

# 福 祉 目 標

## つながって 楽しく元気で 支え合うまち 桜小地区

### 今、つながることの大切さ

人と人とのつながりが薄れて社会的に孤立しがちな時代。対面で人と会話し、ともに何かをすることで心と身体も元気になります。  
◎カフェや歌の会、折り紙の会など、子どもから高齢者まで多様な人が集い、つながる場を設けています。



小地域のカフェの様子

### 活動は楽しく！

地域活動が“楽しい”と、元気が出て長続きします。事業に参加する人も楽しく元気になります。スタッフも参加者も“楽しく”をモットーに活動中です！



参加者もスタッフも“楽しい”が一番！

### 出来るだけ長く、元気で今の暮らしを続けたい！

歳をとるにつれ身体も気持ちも衰えてきます。認知症も他人事ではありません。社会参加し、人と交流し身体を動かし適度に頭を使うことで健康寿命を延ばすことができます。元気になる色々な事業を行っています。



フォークダンスを楽しむ

### 改めて“地域で支え合うこと（互近助）”の必要性

高齢者に限らず子育て世代の人も、何らかの障がいを持つ人も、暮らしに困った時に公的サービスや親族の支援だけでは立ち行かないことが出てきます。今何かでつながっている仲間同士や近所の人同士で気にかけて支え合うことが重要になっています。校区全体でのボランティア活動と、町や丁目ごとの小さな地域でも支え合い（互助）活動を推進します。



ボランティアで通院介助



## 目的

人と人とのつながりが薄れ高齢化が進む中、孤立や認知症の問題は決して他人事ではありません。誰もができるだけ元気で住み慣れたところで暮らし続けられるよう、多様な人がカフェやサロン、趣味の会など色々なつながる場を設け、楽しく生き生きと暮らすことのできる人を増やします。

## 具体的取り組み

- (1) カフェやサロンなど多様な居場所づくりを展開
  - ①カフェさくらや各小地域でのカフェ、サロンなどを継続実施
  - ②子どもから高齢者まで、また障がいを持つ人など、どなたが参加してもよい居場所づくり
- (2) 折り紙や編み物など趣味活動を通して生きがいと仲間づくり
  - ①なかよしクラブの活動を継続
- (3) フォークダンスや歌の会、いきいき百歳体操など健康づくりの取り組み
  - ①体を動かすこと、声を出して歌うことで筋肉と内臓も強化、仲間と楽しく健康づくり

## 目的

子育て世帯が地域とつながっていれば、急に困った時にも信頼できる人に支援を求めたり、子どもたちの安全を地域で見守る環境があれば安心できます。自治会やコミュニティ協議会、福祉委員会などの行事に参加することで、住んでいる地域が子どもたちにとってかけがえのない“ふるさと”になります。そうした“子どもたちにやさしい地域づくり”が少しでもできるよう努めます。

## 具体的取り組み

- (1) 子育て世帯が地域で孤立しないためのつながりづくり支援
  - ①転入時における地域とのつながり支援と地域情報の提供
  - ②子育て世帯の懇談・交流の場づくり
  - ③親子で参加できる地域イベントの開催
- (2) 子どもたちの安全と育ちを地域で支援する取り組み
  - ①小学生の登下校時の「学校安全協力員活動」の継続
  - ②「こどもをまもる110番のおうち」の拡充
  - ③地域の子育てサポーター（仮称）“地域のばあちゃん・じいちゃん活動”の取り組み
  - ④小学校や保育園、民生委員・児童委員活動などと連携したイベントへの協力



## 目的

誰もがいつかは歳を取り、心身に不自由をきたします。また、若い世代にも何らかの支援が必要となることがあります。そうしたことを“自分ごと”、“お互い様”として受け止めお互いに気かけ合い、支え合う地域づくりが必要とされています。そのため、より身近な小地域（中央町・日高町、栄町・市営団地、花屋敷1丁目、花屋敷2丁目、花屋敷山手町・かすみ自治会）で誰もが集える居場所づくりや支え合い活動の取り組みを充実させます。

## 具体的取り組み

- (1) 支え合いネット会議の開催
  - ①福祉委員、ボランティア、民生委員・児童委員、自治会、地域団体などとの話し合い
- (2) カフェやサロンなどの居場所づくりの継続
  - ①子どもから高齢者まで、外国人を含むどなたでも参加できる場づくり
- (3) 一緒に活動する仲間の積極的な発掘
  - ①わが町、地域のために協力していただける人の発掘及びスポット参加の呼びかけ
- (4) 一人暮らし高齢者や介護家族、障がいを持つ人など当事者の集いの開催
- (5) 見守り・支え合い活動の展開
  - ①一人暮らしの高齢者、災害時安否確認希望者、ハンディのある方々への平時のつながりづくり
  - ②ゴミ出しや買い物など、支援が必要な世帯への支え合い活動の展開

## 目的

現在の福祉委員会は多くが高齢者で構成されており、50代、60代の次代を担う委員が少なく5年先～10年先の組織の維持が難しい状況にあります。組織を維持発展させていくために元気な高齢者はもとより、若い世代の関心と参加を少しでも促すことが必要です。そのための情報発信や事業の工夫で参加者を増やし、活動人材を発掘していきます。また、活動に必要な財源と活動拠点の確保に努めます。

## 具体的取り組み

- (1) 活動人材の発掘、育成
  - ①小地域支え合いネットの活動を通して新たな人材を発掘
  - ②若い世代から高齢者まで伝わる情報の受発信・・・従来の紙媒体とSNSの活用  
・SNSの活用について、検討委員会を設けて具体的な方策を立てる
  - ③必要に応じて、市民活動センターの「地域人材マッチング」の活用
- (2) 若い世代も含めた多様な住民の参加が可能な事業・活動の実施
  - ①子育て世代など若い世代が関心を寄せ参加しやすい事業の実施
  - ②平日働く人が参加しやすい開催曜日や時間の工夫
- (3) 活動の財源確保と活動拠点の確保
  - ①地域活動支援助成金の積極的な活用による財源確保
  - ②各小地域で通常活動に利用可能な活動拠点の確保  
・市総合センターへの登録、利用及び自治会館などの低利用料での複数回利用の依頼



## 目 的

出来るだけ住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためには、制度（公助・共助）や家族（自助）だけに頼るのではなく、今つながっている人同士の互助（支え合い）が改めて重要となります。福祉委員会として、4層の互助活動を推進します。

## 具体的取り組み

- (1) 福祉委員会としての互助活動の推進 ～4層の互助活動の推進～
- ① 1層：ボランティアさくらの取り組み（校区全域）
  - ② 2層：小地域支え合いネットにおける互助活動（町・丁目区域）
  - ③ 3層：役員相互の困った時の互助活動
  - ④ 4層：福祉委員会事業（活動）に参加する仲間同士の互助活動（参加住民同士）
- (2) 近隣同士、友人同士、および自治会など団体会員同士による互助活動の提唱
- ① 「ふくしだより」での提唱及び各種会合などでの提唱

## 桜小地区 地区別ワークショップ及び地区福祉計画策定検討会議

内 容	日 程
地区別ワークショップ 開催	▷ 令和5年6月27日（火）
地区福祉計画策定検討会議 開催	▷ 令和5年7月24日（月）ほか計5回

## 桜小地区福祉委員会事業一覧表

事業名	区分 新規・重点	内 容
		内容、回数、定期開催の場合は曜日
フォークダンス		毎月第2水曜日。講師の指導でフォークダンスを楽しむ会
カフェさくら		毎月第2木曜日。コーヒー、菓子でおしゃべり。幼児から高齢者まで、障がいを持つ人も誰でもが気軽に参加できる居場所
童謡・唱歌をみんなで歌おう会		毎月第2金曜日。パソコンからスクリーンにプロジェクターで映像を写し、みんなで童謡や唱歌を歌う会
ふれあいサロン		毎月第3水曜日。カラオケを楽しむ
なかよしクラブ 編み物の会		毎月第2火曜日。各自毛糸・編み物針持参。講師の指導のもとに各自好きなものを編む
なかよしクラブ 折り紙の会		毎月第3水曜日。指導は地域の人。お雛さんや七夕飾りなど季節に応じた作品を折り楽しむ
なかよしクラブ 歌の会		毎月第4金曜日。プロの先生の歌唱指導、演奏で懐かしい歌や季節に応じた歌を合唱
親子で参加できる 地域イベント	新規	年数回開催。小地域でハイキングやもちつき大会などを開催
小地域でのカフェなど 居場所づくり	重点	◇中央町・日高町：「おもろいカフェ」＝毎月第3金曜日 ◇栄町・市営団地：「栄町キッサ」＝毎月第2月曜日 ◇花屋敷1丁目：「さくらサロン」＝毎月第1木曜日 ◇花屋敷2丁目：花やしきカフェ＝毎月第4木曜日 ◇花屋敷山手町・かすみ自治会：「カフェはなやま」 ＝毎月第3土曜日（R6年4月より未定）
地域交流室さくらの 管理運営		市から管理運営を受託し、福祉委員会の活動拠点として使用するとともに登録団体に貸し出し、年間の管理運営を行う
みんなの家喜六の 管理運営		船川氏より管理運営を受託し、地域の福祉活動及び近隣自治会に会議や活動の場として貸し出す
いきいき百歳体操		毎週火曜日。スクリーンに映る体操モデルの動きに合わせて手足に重りの負荷をかけて反復体操で筋力を高める
一人暮らしの食事会		毎月第3金曜日。みんなの家喜六を会場に手作りの食事とおしゃべりを楽しむ
ふくし講座		年3回程度地域の防災、認知症への理解など適時のテーマを決めて開催し、広く住民への学びの機会とする
パソコン指導		毎月第2月曜日。パソコン・スマホ使用について、分からない所を個別指導

広報活動	重点	「ふくしだより」年2回（秋と春号）発行。行事ポスターの作成、掲示。グループラインやSNSの活用を通して広い世代に情報発信
小地域での見守り・ 支え合い活動の推進	重点	町・丁目単位の小さなエリア単位で、必要に応じて気になる人への見守りやゴミ出し、庭の草取りなど、ちょっとした困りごとへの支え合い活動を行う
「ボランティアさくら」 による活動		校区全域から一人暮らし高齢者や障がいを持つ人などからの依頼により、買い物代行や病院への付き添い、話し相手などを行う。 1回、1時間以内、利用料@300円の有償制
福祉委員会・地域の互助 活動の推進	重点	既存の役員会や部会、自主活動グループのメンバー同士の困った時の声掛け・支え合い活動を推進する。併せて地域団体や住民への互助活動の提唱
学校安全協力員の活動		学校の授業がある平日の毎日、桜が丘小学生の主に登校時の見守り活動。「こどもをまもる110番のおうち」の増設に協力
福祉ネットワーク会議		校区内にある福祉、医療、NPO、自治会、小学校・中学校などの機関、団体の参加で地域の福祉活動の情報共有と必要とされる地域課題の協働を目指す
小学校児童・保育園園児 との交流		小学校と校区内にある保育園の子どもたちと「昔あそび」などで交流
福祉活動人材の発掘・ 育成	重点	当会主催の小地域支え合いネットの活動を通じて、また事業参加者や「ふくしだより」・SNSによる情報発信を通じて若い世代の参加と理解を促し将来的な福祉活動人材の発掘、育成につなげる
役員会		毎月第1金曜日の午前。協議事項、報告事項を話し合う
部会の開催		◇総務部会：毎月役員会の前の火曜日 ◇ふくし部会：第1金曜日の午後 ◇広報部会：年7回程度 ◇交流いきいき健康部会：随時 ◇ボランティア部会：毎月第4水曜日 ◇なかよしクラブ：毎月第3木曜日 ◇みんなの家喜六管理運営委員会＝隔月開催

第5次 桜小地区福祉計画策定委員名簿

	氏名	所属・役職
1	濱田 真帆	川西市社会福祉協議会：コミュニティワーカー・生活支援コーディネーター
2	関原 由加利	川西地域包括支援センター 社会福祉士
3	山戸 正啓	市立桜が丘小学校 校長
4	津田 加代子	桜小地区コミュニティ協議会 企画局長 桜小地区福祉委員会 監事
5	砺波 義雄	新栄自治会 会長 桜小地区福祉委員会 理事
6	中田 鞆子	川西市中央民児協 会長
7	志水 裕子	民生委員・主任児童委員
8	増田 敏子	桜小地区キャラバンメイト 代表 桜小地区福祉委員会 副委員長
9	大西 敏晴	かわにし防災士の会 副会長 桜小地区福祉委員会 理事
10	岡本 あゆみ	桜が丘小学校PTA まとめ役
11	武智 瑛子	桜が丘小学校PTA まとめ役
12	木村 礼子	花屋敷ばあばのおうち 主催
13	藏原 亜紀	NPO法人 育ちあいサポート ブーケ 代表理事
14	浜上 章	桜小地区福祉委員会 委員長
15	伊勢 貞夫	桜小地区福祉委員会 副委員長
16	上山 幸子	桜小地区福祉委員会 副委員長
17	竹村 治美	桜小地区福祉委員会 副委員長
18	徳田 裕平	桜小地区福祉委員会 書記
19	深町 延子	桜小地区福祉委員会 理事（当事者家族）
20	若井 京子	桜小地区福祉委員会 理事（当事者）
21	湯川 洋子	桜小地区福祉委員会 理事（元介護専門職）